



## 今月の表紙 株式会社インターパック

ふるかま あきひろ  
代表取締役 古鎌 昭博さん

# MOVE

# 12

工場に入らずとも聞こえてきたのは、リズムカルな機械の音だった。

カシヤン・シユー・カシヤン・シユー……。

小気味のよいその歌声の主は、完成間近の新製品。

鋭い眼光で試運転を見守るベテラン工員のすぐそばには、さらに鋭い眼光で彼の仕事を見つめる若手社員の姿があった。

株式会社インターパックは、来年、設立50年を迎える

**自動包装機械の専門メーカーだ。**

ここでいう「包装」とは、生産工程の最終段階にあたる個別包装や段ボールでの集積包装(箱詰め)を意味している。

同社は、顧客の要望に応じた包装機械を一品一様で創り上げているのだが、

特筆すべきは、“包む”対象となる製品の幅の広さだろう。

即席麺などの食品類からティッシュペーパーなどの日用品。

また、工業製品、化学製品、建材といったジャンルも手かけ、

汎用性の高いその技術力は、

**国内外の著名なメーカーからも**

**厚い信頼**が寄せられている。

「弊社の原点は、昭和5(1930)年に愛媛で生まれたみかん選別機(出荷用のみかんを選別して木箱に詰める機械)の製作所でした。ケースの主流が木箱から段ボールへと移ろいゆく中で、拠点を変え、形を変え、お客さまのニーズに応じたあらゆる包装機械を創るようになったのですが、苦難を多分に含むそうした経験のひとつひとつが、現在の技術力やノウハウにつながる源泉になっていると思います」

### スピード。

古鎌昭博代表のお話を聞くと、インターパックの仕事のすべてに、このキーワードが必ず出てきた。

まずは、顧客優先のスピード対応。どんなときでも即断即決で、“お客さまを待たせない”ことを重要なモットーのひとつとしている。

また、何よりも同社の製品、包装機械の特長だ。国内最速クラスのスピードを誇るとともに、設置後の立ち上がりが格段に早い。

それは、すなわち、生産性の維持・向上につながるわけで、なるほど、顧客の製造現場で歓迎されるのもよくわかる。



企業DATA  
〒333-0845  
埼玉県川口市上青木西1-13-28  
TEL:048-255-8040  
<http://www.inter-pack.com>



「どんなに難しいオーダーであっても、社員みんなで知恵を絞って、必ず完成にこぎつけてきた。この絆もまた私たちの技術の源泉であると自負しています。人材育成のために、ベテランと若手が組むことが多いんですけどね、その関係性は、師弟というより、親子に近いんじゃないでしょうか」

工場内、ベテラン工員の仕事を見つめる若い社員の後ろ姿は、父に対する尊敬の念を言葉なくして物語っていた。しかし、同時に、いつかは超えんと静かに燃える熱き闘志にもじませている。

古鎌氏曰く、

**「ウチはみんなファミリーですから」。**

インターパック発展の礎(いしずえ)は、これまでも、これからも、このひと言に集約されそうだ。



古鎌昭博代表(右)と、水本電機経営企画部長(左)



昨年度、川口i-monoブランドに認定されたインターパックの自動包装機械